

令和5年度 全国硬筆コンクール課題参考手本

大平恵理書

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき、
前にさしたる花櫛の
花ある君と思ひけり
やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
薄紅の秋の実に
くひ初めしはじめなり
若菜集より

かく

高校・大学・一般

*署名は枠の大きさに合わせて、姓名または名前を
作品に調和するように書きます。

課題解説

声に出して読みたい藤村詩集

この課題文は島崎藤村の詩集「若菜集」にある『初恋』の4節のうち2節である。浪漫主義的抒情詩人と呼ばれる藤村の主要テーマは恋愛。『初恋』は代表的作品として多くの人が暗唱する。「まだあげ初めし」「やさしく白き」に続く第3、4節は「わがこゝろなきためいきの その髪の毛にかゝるとき たのしき恋の盃を君が情に酌みしかな／林檎畑の樹の下に おのづからなる細道は 誰が踏みそめしかたみぞと 問ひたまふことこひしけれ」。

「小諸なる・・・」の五七調に対し、七五調のリズムに注目し暗唱しよう。

※林檎（りんご）、花櫛（はなぐし）、薄紅（うすくれない）

（課題文は「書文協ことば会議」選定・創作）